

令和2年度～5年度使用 小学校用教科用図書採択理由書

宮崎大学教育学部附属小学校

教科用図書名 【 生活 】
発行者名 【 啓林館 】
教科書名 【 わくわくせいかつ 】

観点1 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等
(1) 具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成するために、「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」の3段階で活動を設定し、活動の流れを明確にすることで、多様な子どもにも分かりやすい構成となっている。 (2) これまでの体験活動が生かされるようなスタートブックが配置され、そのなかに教科のマークが付いているなど、合科的・関連的な学習活動が展開できる工夫がされている。また、下巻の巻末にはステップブックが設置され、中学年以降への円滑な接続につながるような工夫がされている。 子どもの発達段階に応じた目標や単元目標を達成するために、上巻では日常生活を生かした活動、下巻では他教科につながる地域とふれあう活動で構成されている。
観点2 内容や指導の充実
(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、単元の導入では「単元扉」と「わくわくボックス」の4ページを使い、子どもの意欲を高め、今後の活動に見通しをもたせることができるようにされている。次に、主な活動については、対象に直接働きかける学習活動を重視し、繰り返し対象とかかわる姿や試行錯誤する姿を挿絵やカードで示している。最後に、伝え合う活動については、他教科との関連を図りながら表現自体を楽しんだり ICT を活用したりする多様な表現活動を例示している。 また、子どもの思いや願いをつなげるように、紙面右下に「めくり言葉」が設定されており、活動が単発的にならず、気づきが繰り返し深まるように構成されている。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「こんなときどうしよう」コーナーで、挨拶やマナー、安全上の注意などの基本的な生活習慣と学習できるように工夫されている。巻末の「がくしゅうずかん」に、調べ方・記録のしかた・話合いの工夫・まとめ方が一連で示されていたり、道具の使い方・安全上の注意などが示されたりしている。 (3) 道の状況にも対応できるよう、単元末の「ぐんぐん」では、学習をふりかえり、自らの成長や学びの深まりを実感させることで、学習したことを次の学習や生活へ生かそうとする工夫がなされている。
観点3 利便性の向上
(1) 子どもが身近な人々、社会及び自然と繰り返し関わったり、何度も試行錯誤したりしながら、気づきを深めていく様子を大切にストーリー展開となっている。気づきのヒントや安全上の留意点をキャラクターで示したり、衛生面の配慮等をアイコンで示したりしている。 また、「保護者の皆様へ」と保護者向けに学習内容を明記してあるため、家庭との連携を図り、実生活へつなげることが期待できる。
観点4 地域の教育の特色や児童の実態等
(1) 本校は、校区が宮崎市全域で広範囲にわたる。そのため、地域の実態や特性もそれぞれであり、多様な生活経験をもった子どもが多いと思われる。好奇心旺盛な子どもが多く、発展的な学習を進めていこうとする傾向が多く見られる。 スタートカリキュラムについては、附属幼稚園との連携をとることで、円滑な接続を図ることができる。